



みんな なかよく げんきに のびよう

三つの宝「**う**つくくまわりを **え**がおであいさつを **き**ちんとくつならべ」

令和4年度第25号
熊本市立植木小学校
令和4年10月18日
文責：校長清田浩文

衣替えの季節、自ら気づき、考え、行動を！

10月半ばとなり、朝夕の風が冷たく感じられるようになってきました。

間もなく冬季の服装についての文書をお配りしますが、本校は「標準服を着用する」となっています。これは、「制服ではない」ということです。後日、文書でお伝えする内容は、あくまでも目安であり、原則です。「必ず遵守しなければならない校則」ではありません。どのような服装で登下校するか、親子で十分検討し、デザイン（見た目）ではなく、健康面を重視して（乾燥肌・敏感肌の子どももいます）衣替えをしてください。大切なのは、「子どもが自分自身で体温を調整する力」「状況に応じて着脱できる力」を育てることです。

- ◇ 「植木っ子 生活のきまり」について、高学年の子どもたちから意見や要望を出してもらいました。その中で、「冬用の体育服や防寒着は厳寒期（11～3月）に着用となっているが、それ以外の寒い日も着ていいようにしてほしい」という声がありました。
- ◇ 上記で述べましたように、必ず遵守しなければならないということはありません。気温や風の強さと自身の体調を考慮して、判断することが大切です。体感温度は個人によって差があります。無理をせず、凍える思いをしない服装を選択してほしいと思います。
- ◇ 寒くなって、特に気になるのが、長袖の袖口を延ばして手袋のようにする子や、ポケットに手を突っ込んで登校する子が見受けられるということです。そんなことをすれば、背筋が曲がったままあることになり、とっさの時に手をつくことができず危険です。手袋は着用してかまいませんので、袖口を延ばしたり、ポケットに手を入れたりせず、胸を張って歩いてもらいたいものです。
- ◇ 元々「子どもは風の子」と言われるように、大人に比べて代謝が良く、暑がりです。日頃から外遊びをして、体を動かしていると、少々の寒さには負けません。体は外気に当たることで徐々に寒さに慣れてきます。多少寒くても、積極的に屋外で過ごすことが大切です。
- ◇ 寒さを防ぐには、筋肉量を増やす必要があります。筋肉はそれ自体が発熱しますから、筋肉量を増やせば、寒さに強い体になります。体育の授業だけでなく、「すくすくタイム」や昼休みを有効に使って、元気に走り回り、運動や遊びを通して筋肉量を増やしてほしいと思います。

学校教育目標

気づき・考え・実行する、自立と共生の力を備えた子どもの育成
～出会いと出番と対話のある学校を目指して～